

# 荒川（上流域・下流域）流域治水協議会 議事概要

日時：令和3年3月3日（水） 13時30分～14時45分

会場：羽越河川国道事務所 大石ダム会議所2F 会議室

## 【流域治水プロジェクト案】

「荒川水系流域治水プロジェクト（案）」について異議はなく、案のとおり承認された。

## 【主な質問・意見】

（村上市長）国土強靱化対策である樹木伐採・河道掘削に感謝。また、昨秋のクマ対策の実施（高水敷のヤブ刈り）は住民の安全・安心に直結した。速やかな実施に感謝する。

「多段階な浸水リスク情報の充実」について詳しく説明願いたい。

分類イメージ（資料2-1）にある「避難所の維持」についてどのように進めていくのか。自治体もコロナ禍のなか避難所運営に苦慮している。

（羽越河国）樹木伐採・河道掘削などの維持管理はプロジェクトには記載されないが、継続的に進めていくことが原則と考えている。

「多段階な浸水リスク情報の充実」であるが、浸水想定区域図は浸水範囲と浸水深を示しているものである。同じ浸水深であっても浸水頻度は違うこともあるため、浸水頻度に伴うリスク情報を提供していくものである。

避難所の維持については、浸水区域にある避難所の耐水化、拠点整備などで二次避難としないようにするためのものである。

## 【流域治水プロジェクトに対する意見】

（村上市長）災害が頻発しており、住民の防災意識も向上している。防災・減災につながる流域治水の取組を推進したい。また、住民避難対策を今後もとりこんでいきたい。

（胎内市長）災害はゼロにはならない。ハード＋ソフト対策を今後も進めていく。流域治水の施策の中では「土地利用と住まい方の工夫」が重要である。しかし立地規制など住民移転を伴うものについては実施が容易ではないため、実施にあたっては関係機関との連携を深めていきたい。

（関川村長）ハードだけ、ソフトだけでは災害を防ぐことはできない。関係機関の連携強化を今後も期待している。

（小国町長 代理：町民生活室長）羽越水害後、砂防・治山・河道・横川ダムなど各種対策が進んだ。羽越水害以降大きな水害は発生していないが、全国では災害は頻発しており油断はできない。ハザードマップ説明会などを通じて自主防災のあり方について啓蒙を図っている。

（山形県 河川課）山形県内荒川については、河道掘削、樹木伐採による流下能力向上を引き続き実施していく。

（羽越河国）流域治水プロジェクトの実施にあたって、河道の樹木伐採・河道掘削などの維持管理は継続的に実施するものであり、これが前提となっている。河道以外の流域対策としての維持管理についても同様に実施されることが前提である。

## 【その他意見】

(村上市長) 今年度はコロナ禍で水防訓練を含め、消防団活動がなかなかできなかった。

三面川のサケの遡上数を増やすため、ダム放流量を増やしてもらった。※今後もダム放流量とサケの遡上の研究について県と連携していきたい。

田んぼダムであるが、全ての水田で実施しているわけではない。多面的機能交付金の支給をもっとPRして田んぼダムの取組の促進が図ればよいと思っている。

(村上地域振興局農林振興部長) 交付金の活用について、利用促進となるように農政局と調整していきたい。

※協議会后、新潟県村上地域振興局地域整備部より、確認したところ発電による放流量の増加で対応したと連絡があった。

—以 上—